

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

止めよう! 変形労働制 47

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.47

全北海道教職員組合

2019. 12. 26

緊急シンポジウム～工藤祥子さんの講演より⑦

過労死等は6月が最多で、夏休みまでもちません～休むタイミングを逃さないで

●過労死は6月が最多～夏休みまでもちません

1年単位の変形労働時間制の話聞いて、まず私が思ったのは、夏休みまでもたずに亡くなってしまった夫のことです。夏休みになったら病院に行くから、休むからと言いながらがんばり、6月の末には他界してしまいました。

同じように家族に伝えながら7月の夏休み前に亡くなってしまった先生も、家族の会にいます。

教師の過労死等 長時間労働と健康

教師の過労死等の発生時期

脳心疾患死亡事案のみ(全31件中)

1学期	4月—1件	5月—3件	6月—7件	7月3件	=14件
		夏休み	8月—0件		
2学期	9月—1件	10月—1件	11月—2件	12月—3件	=7件
		冬休み			
3学期	1月—6件	2月—2件	3月—2件		=10件

1学期の主な理由・・・転任後、行事後(主に修学旅行)、長時間労働、生徒指導、部活動、過重労働など

2学期の主な理由・・・1学期からの蓄積疲労、行事後(主に体育祭・文化祭)など

3学期の主な理由・・・蓄積疲労、事務的作業、生徒指導

自死事案死亡事案のみ(全13件中)

1学期	5月—1件	6月—3件		
	夏休み	8月—2件		
2学期	9月—1件	10月—3件	12月—3件	

1学期に精神疾患発症、夏休みを乗り切ったあと2学期の多忙時期で力尽きる

新任教師、問題行動の多い学級担任が多い

休むタイミングを逃さない様に!

- ・夜寝れない、または寝られても夜中や朝方起きる
- ・食事がとれなくなる
- ・体が痛くなる

脳心疾患によって亡くなった月の統計を見ると、6月の過労死が非常に多いです。31人中14人が1学期中です。つまり、夏休みまでもたないのです。夫も、夏休みまでもちませんでした。

1学期は新たな環境で緊張を強いられ、新たな業務や行事が多く、新たな役職が一気に来てしまい、長時間過密労働となって亡くなってしまったという例が多いです。

●キーワードは「蓄積疲労」～変形労働導入は非常に危険だと感じています

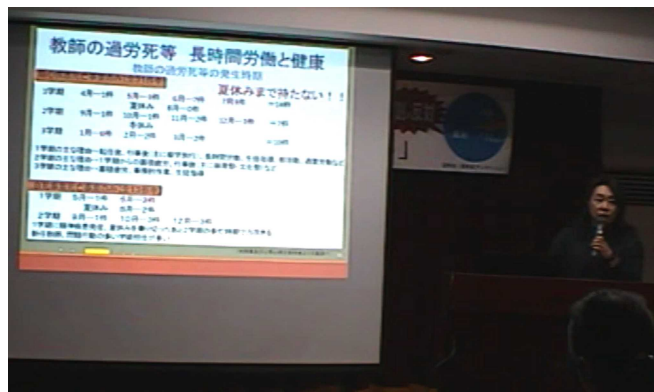
次に注目していただきたいのが、12月・1月です。このキーワードは「蓄積疲労」です。1学期は乗り切ったけれども、夏休みが終わって10～12月の疲れがどっと出てしまうのです。

特に、1月に他界された方は、他界前3か月はだいたい100～200時間の時間外労働が記録されていて、冬休みを挟んでいるにもかかわらず、疲労が取りきれなかったことが読み取れました。

1月に他界されたある先生の事案では、地方公務員災害補償基金は、冬休みに一定期間の休みが取れているとして、その前の3ヶ月間の時間外労働は評価しないとされてしまい、公務外と認定されてしまった例があります。

そういう扱いをされてしまう、その中に、この1年単位の変形労働時間制が導入されるということは非常に危険だと感じています。ただでさえ1日の疲労がとれずに蓄積されてしまうのに、繁忙期に定時が1時間延びて、合法的な労働が増えてしまったら、さらに過労死等が増えてしまうことを大変危惧しています。

1週間の中でも、土日に寝だめをして月曜日に動くとともにさらに体調が悪くなってしまうという統計もあります。夏休みと冬休みのまとめ取りは、教師の疲労回復には直接つながりません。もちろん、長時間労働の解消にならないということは大臣も答弁しています。



●過労自死も、6月が最多～1日単位で回復しなければ、いつまでも蓄積します

自死事案についても、6月が一番多く、次に多いのが夏休みと夏休み明けです。多くの先生が、1学期、6月頃に精神疾患を発症しています。その先生方が、夏休みを乗り切ったそのあとに、また同じ状況に置かれてしまったときに、絶望して死を選んでしまうということが多いです。

1日単位で疲労を回復しなければ、疲労はいつまでも蓄積します。このように、先生方の悲劇がなぜ起きるかを分析し、この法案が活用されたときにどのような影響を与えるのかということ熟考していただきたいと、これからも訴え続ける覚悟です。



●休むタイミング～寝られない、食事がとれない、体が痛くなる

みなさん、どうぞ、休むタイミングは逃さないください。夜に寝られない、夜中に起きる、食事がとれなくなる、それだけではなく、体が痛くなってどうしようもないというのも、ストレス症状にありますので、これは逃さずに休む勇氣を持ってください。



このニュースを、各地で、学習・対話に活用してください

このニュースは、道教組のフェイスブックやツイッターでも発信しています。また、道教組ホームページでも公開しています。ぜひ、このニュースを活用して、各地で学習や対話を広げてください。

